

令和5年度 第1回湖西市日本語教育推進会議

会議録

記録者 市民課 小林

▶ 日 時：令和5年5月12日(金) 14時00分～16時15分

▶ 場 所：湖西市民活動センター 2F 大会議室

▶ 出席者：

- (委員) 常葉大学外国語学部グローバルコミュニケーション学科教授 坂本勝信
静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科准教授 福永達士
静岡県多文化共生課西部エリア担当地域日本語教育コーディネーター 岸川順子
湖西国際交流協会事務局長 猪井英典
日本語教師 豊田吉博
学校教育課主任主査 内山さよこ
(湖西市) 市民安全部市民課長 豊田雄一
市民安全部市民課協働共生係長 小林景子

▶ 資 料：

【資料1】湖西市日本語教育推進会議の目的

【資料2】湖西市における日本語教育の現状

【資料3】多文化共生についてのアンケート調査結果（令和2年度湖西市）

▶ 参考資料：

【参考1】第3次湖西市多文化共生推進プラン

【参考2】日本語教育の推進に関する法律

【参考3】静岡県地域日本語教育推進方針

【参考4】地域における日本語教育の在り方について（報告）

▶ 会議概要：

1. 開会の挨拶（市民課長）

2. 委員・事務局自己紹介

3. 会長及び副会長の選出

会長に坂本委員が選出され、副会長に福永委員が指名された。

4. 議事

【議事(1)湖西市日本語教育推進会議について】

- ・ 市民課から、湖西市日本語教育推進会議の設置の背景、目的、並びに令和5年度の協議内容及び会議日程について説明があり、質疑を行った。
- ・ 質疑応答や意見は次のとおり。

<質疑応答・意見>

- ・ 2回目の会議日程は本日の会議中に決定し、3、4回目の日程については会議終了後に改めて調整する。
- ・ 日本語教育については、これまで現場で試行錯誤してきた。委員に議論していただき市の方向性を打ち出すのは良い。
- ・ 会議日程はタイトだが、提言後の施策をしっかりと行っていくと推察。
- ・ 湖西市の日本語教育はこれまで国際交流協会が独自に手探りで行っていた。市が体系的に課題を抽出し、前向きに取り組み、提言を受けて一歩ずつでも進めてほしい。
- ・ 湖西市は外国人市民のためにこうするという方向性がこの協議会で出せると、その他の細かな施策にも道筋がつく。
- ・ 関係者の熱意を感じており楽しみ。

【議事(2)湖西市における日本語教育の現状】

- ・ 市民課から、湖西市における日本語教育の変遷及び現在開催されている日本語教室について説明があり、質疑を行った。
- ・ 猪井委員から、日本語教室の内容について補足説明がされた。
- ・ 質疑応答や意見は次のとおり。

<質疑応答・意見>

- ・ なぜ、大人対象の教室が無料で、子ども対象の教室が有料なのか。
- ・ 市の委託仕様では、大人子ども共に受益者負担の観点から参加費をもらえることになっている。受託者の事業計画に基づき、参加費が現状の通りとなっている。
- ・ 子どもの教室についても無料としたいところだが、サポーターへの謝礼も少額だが支払っており、委託費だけでは赤字になってしまう。通年プレスクール事業については、令和5年度から値下げをしている。本来は無償としたい。これも課題の一つ。

【議事(3)湖西市における日本語教育の現状】

- ・ 市民課から、外国人市民の日本語学習に関するアンケート結果についての説明があり、質疑を行った。
- ・ 質疑応答や意見は次のとおり。

<質疑応答・意見>

- ・ 資料 3 の 10 ページ、問 15 の回答選択肢は、どのように設定したか。市が想定する教室内容を答えてもらうような設定か。
- ・ 日本語教室に来られない外国人市民が、どのような教室だったら来られるのかを想定して選択肢を設けた。
- ・ 答えありきの質問と感じた。自分が生活者としての外国人であれば、この中に選択肢はない。平日に集中的に日本語を勉強できるところなど、内容重視で選ぶと思う。
- ・ 資料 3 の 7~8 ページ、問 11 の日本語能力についての回答は、普段外国人市民に接している感覚と比較して、日本語ができるという人が多いように感じる。有効回収率が 30.2% と外国人市民へのアンケートとしては回答率が高いので、回答した方は日本語学習に対しても意識が高いという印象を受けた。
- ・ 問 11-3 に関連して、市内の小中学校でも、学校によりポルトガル語、スペイン語で翻訳したお便りが毎回出せるところ、ルビなしの日本語のまま出しているところ、各校によって対応が異なっているところも課題になるかと感じた。
- ・ 技能実習生に日本語を教えているが、資料 3 の 6 ページ、問 10 に関連して、今の仕事で困っていることがないという回答が 27.8% というのも実感より多い。本当にスムーズに仕事ができているのだろうか。
- ・ 日本語を勉強したいという方が約 70% というのも、本当にいるのだろうかという感覚がある。
- ・ 勉強したいですかと聞かれれば、勉強したいと答える。アンケート結果ではあるが、この結果が実態と全く同じでないことも読まなければいけないという感想。技能実習生と定住者方は意識がちがうと感じる。技能実習生はレベルの高い日本語を身につけたいと思っているだろうし、定住者の方は地域でのコミュニケーションや学校での日本語が必要。
- ・ 湖西市は、外国人市民が集住している地区があるのか、それとも散在しているのか。
- ・ 表鷺津に一番集住している。表鷺津も含めた鷺津駅周辺、新居地区、岡崎中学校区の順に外国籍住民が多い。外国籍住民が住んでいない自治会は 41 自治会中 2 自治会のみ。

【議事の最後に、第 2 回会議に向け、課題について意見交換を行った】

- ・ 発言のあった課題は以下の 4 点。
 - ①日本語コースについて

【参照】資料 2 の 2 ページ「大人の日本語教室」、参考 4 の 21 ページ下から 8 行目「そのため、各地域において…一定水準の学習内容を示すこと、…学習目標の明確化等を通じて外国人等の日本語学習への動機付けを図ることが肝要である。」

- ・ 大人の日本語教室（1 週間に 1 回の生活者のための日本語教室）の中で使用している教科書がみんなの日本語（構造シラバスの教科書）でいいのかどうか。

②外国人市民の日本語コースへの参加について

【参照】資料 3 の 9～10 ページ「日本語を勉強したい、したいけれどできない」と答えた方へのアンケート

- ・ 日本語教室をやめた人、継続できなかった人もいると思う。やめた理由を調査することによって、継続的に日本語教室に参加するための方法がとれるのではないか。

③母語支援について

【参照】資料 2 の 6 ページ「春のプレスクール事業」

- ・ 親子が 8 組しか参加していない、参加者が少ないのが課題。

【参照】参考 2 の日本語教育推進法第 3 条第 7 項

- ・ 人は第一言語を使う権利がある面でも、母語支援を重視することも大切。
- ・ 母語支援・教育と第二言語としての日本語教育の両方が重要だ。

④日本人住民の態度について

- ・ 下記 3 点から、日本語学習者を支援する側への支援も必要なのではないか。

【参照】参考 1 の 17 ページ「多文化共生推進プランの成果指標」

- ・ 多文化共生推進プランにおいて、外国人市民に親しみを感じる日本人市民の割合が 2015 年度から 2020 年度で下がっている。

【参照】参考 4 の 49 ページ

- ・ 地域住民の日本語教育活動の参加 - 日本語学習支援者の態度において、「学習者の言語や文化を尊重し、対等な立場で接しようとする」とされている。

【参照】参考 4 の 48 ページ

- ・ 生活者としての外国人に対する日本語教師の態度において、「学習者に対する態度」「文化多様性・社会性に対する態度」が説明されている。

5. 市長挨拶

湖西市長 影山剛士より挨拶。公務のため、退席。

6. その他

次回会議日程 令和5年6月30日(金) 14:00～16:00

以上